

日本眼科医会の男女共同参画

—医会活動に女性が関わる意義—

(ダイバーシティ推進に向けて)

公益社団法人日本眼科医会
会長 白根雅子

【抄録】

日本眼科医会（以下、本会）は、眼科を専門とするほぼ全ての医師約 15,000 名が加入しており、日本眼科学会（以下、学会）と両輪で医療を推進している。

人口減少を背景に医療環境の変化は加速しており、私たちにはしなやかな対応力が求められている。本会では、様々な立場の女性医師を積極的に登用しており、女性の割合は役員では 23%、代議員では 15%となっている。それにより会務に多様な視点が入り、諸課題の迅速な解決と柔軟な事業展開につながっている。

眼科は女性が 41%を占め、その 65%が勤務医である。女性の勤務医のうち、病院に所属しているものは 6割にとどまり、これが基幹病院の眼科医不足の要因の一つとなっている。間近に迫る医師の働き方改革を乗り切るには、学会と協力して女性がキャリアアップできる環境を提供するとともに、性差や立場を超えて一丸となって「医療の発展」と「医師の well being」を両立させる努力が求められている。このため、本会では、2021 年に「男女共同参画」を「ダイバーシティ推進」へと脱皮させ、学会と連携して取り組みを始めた。本会の試みが、各地、各診療科の活動の一助となれば幸いである。